日刊 動労千葉

87. 10. 23

No. 2685

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

国鉄「分割・民営化」反対！三里塚二期工事阻止！

沖縄派遣団 元気に出発

十月二二日、動労千葉の沖縄派遣団が、動労水戸、国労共闘の仲間とともに沖縄に出発した。

羽田空港は、空港内外を機動隊、制服警官、私服がうろつき、窒息しそうな厳戒体制を敷いている。モノレールを降りたとたん50～60名の制服警官が通路をふさぎ、飛行機を利用する人々を呼び止め、荷物や、カバンをすみずみまでチェックする。この全く不当な検問に派遣団が抗議したところ、警官らはとたんに口調が変わり「見せろといったら見せろ」「中に爆弾でも隠しているんだろう」と根も葉もないことをわめき、カバンを取りあげた。

こうした住民の生活までも監視する弾圧体制をもって「戦争のできる国家体制」を策動する支配者、その手先である権力の横暴を目の当たりにすると腹の底から怒りがこみあげてくる。

千葉転永田支部長、佐藤青年部沖縄派遣団長をはじめとする団員達は、こうした弾圧体制をものともせず元気よく羽田をあとにした。

モノレールの出口で不当な検問
このあと、権力に抗議をたたきつけた！

絶大なカンパに応えガンバる!!

派遣団を代表して、永田支部長は「沖縄県民と連帯し、ガンバッてくる」と一言力強く語り、キリリと口を閉じ、固い決意の一端をうかがわせた。

青年部派遣団々長、佐藤副青年部長は、「組合員のみなさんの多大なカンパをいただいた。この熱い期待を裏切ることなく、先頭でたたかいます。」と一言。

他の仲間も全力でたたかう決意を明らかにし、沖縄現地へ向かった。

出発前、空港ロビーで決意を語る！

故関川前委員長の死を悼む

あまりに突然の訃報に驚きと、まだまだ生き共に闘い抜いてほしかったという気持で残念でなりません。動労千葉にとって、私にとって前関川委員長の存在はあまりにも偉大であり、まさに忘れることはできません。

つねに闘いの先頭にたち、指導してこられたあの勇姿が今も目に焼きついています。

とりわけ、動労千葉の分離独立、動労革マルとの組織争闘戦、三里塚ジェット燃料輸送阻止、労農連帯の闘いが、前関川委員長とオーバーラップして思い出されます。

また、「十年間を顧みて」を読みかえしながら、あらためて我々組合員に対し、あらゆる困難のなかでも、あきらめず困難をのりこえ、はね返していく根性を訴え、ときには逆にひらき直った気持でしぶとく、くらいついていくことも教えてくれました。

そんな関川さんは丁度、今の私ぐらいから組合役員を経験し、間もなく委員長に就任した訳ですが、その頃、私は組合運動に積極的ではなかった、いま風にいえば、むしろ無関心であった。そんな私が支部の執行委員になったのも、関川さんが委員長になってからでした。本当に苦労しながら、闘志を内に秘めた、もち前の頑張り、正義をつらぬきグイグイ組合員を引っぱってくれた委員長への強烈な印象が残っています。

これまで多くのことを前関川委員長から学びとり、それが血となり肉となって一つの大きな財産として蓄積され、闘いの過程で大いに役立ってきたものでした。

われわれは、これまで前関川委員長の豊富な知識のうえに闘いの中でも真価を発揮し、お互に不眠・不休で同じめしを一緒に食べながら、ザックばらんな話をしながらワイワイやってきた想い出を胸に刻みこみながら前関川委員長の教えを守り遺志を継いで新たな飛躍、新たな前進をかちとらなければならないと考えます。

動労千葉津田沼支部

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！